

かけはし

足柄上病院の病院理念

- 「あ」：安全で安心な医療を提供します。
「し」：社会の要請を担う政策医療を展開します。
「か」：患者中心の医療を実践します。
「み」：魅力ある自立した病院を目指します。

秋号（通刊 第80号）

わたしたち訪問看護科です

患者さんが、住み慣れたご自宅で安心して生活できるようにサポートするため、今年4月に訪問看護科を設立しました。特徴は、当院の看護師が直接訪問看護を行うということです。

病棟や外来の看護師から患者さんの経過やケア方法を引き継ぎ、患者さんにあったケアを継続します。また、当院の主治医としっかり連携することで、患者さんの体調がすぐれない時は速やかに訪問診療や入院治療に移行することができます。そして、私たち訪問看護科は、住み慣れた地域で安心して療養が続けられるように地域のサービス機関につなぐという大きな役割を担っています。

患者さんの退院にあたりご家族から、「今までと同じような生活ができるのか」「相談相手がいないので心配」等の退院後の生活が不安だという声が多く聞かれます。また、退院後に入院中には想像していなかった困りごとに直面することもあります。主治医の指示に基づいて、退院後に数回あるいは週に数回等、患者さんの状況に合わせて訪問し、健康状態の観察、内服の確認、点滴や創傷処置、ご自宅での介護方法の説明や相談等に対応しています。訪問看護科が行っているケースをご紹介します。



ケース1 リハビリにより歩行器で歩けるようになって退院された患者さん

自宅での生活状況確認のために訪問し、困りごとなく過ごせていることを確認して、地域のサービスに引き継ぐことができました。訪問看護は1回で終了しました。



ケース2 内服薬の飲み忘れがあり、ご家族の希望で訪問看護を開始した患者さん

週2回訪問して薬のセットを介助し、飲み忘れが少しずつ減り、訪問回数は週1回になりました。



ケース3 おひとりでは外出ができないため、体調確認のために訪問看護のご希望がある患者さん
宅配サービスを提案するとともに、お食事が少しずつとれるようになったことを確認し、地域のサービスに引継ぎ在宅療養を継続しています。

自宅に帰ると入院中に見えなかった困りごとが明確になる場合があります。ご自宅で自分らしく生活ができるように寄り添って支援したいと思います。ご自宅での療養で訪問看護を利用したい、詳しく知りたい、また、不安やお悩みがある方は、主治医や看護師、地域医療連携室へご相談ください。



～早期発見・早期治療で健康を守りましょう～

内視鏡センター長 やなぎ柳 ばし橋 たか崇 ふみ史

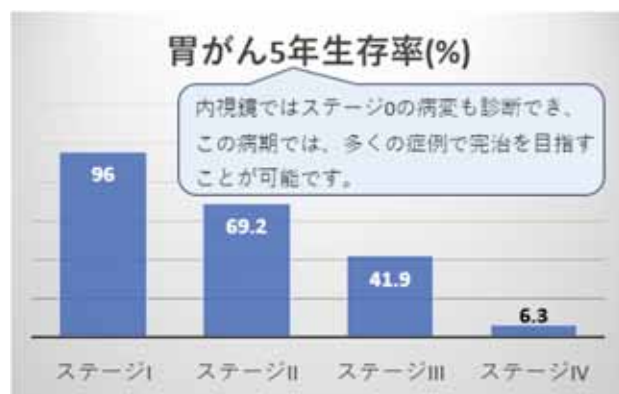


日本では、胃がんや大腸がんは依然として多くの方がかかる病気であり、がんによる死亡原因の上位を占めています。しかし、これらの病気は「早期に発見できれば治る可能性が高い」ことが大きな特徴です。そのために欠かせないのが、内視鏡検査です。

癌の罹患部位(2021年)					
	1位	2位	3位	4位	5位
総数	大腸	肺	胃	乳房	前立腺
男性	前立腺	大腸	肺	胃	肝臓
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮

国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)

足柄上病院では、上部消化管内視鏡(胃カメラ)や下部消化管内視鏡(大腸カメラ)に加えて、胆膵内視鏡(ERCP)や超音波内視鏡検査(EUS)といった高度な検査まで幅広く対応しています。さらに、胃がん内視鏡検診も実施しており、過去に内視鏡検査を受けたことのある方はお電話での予約も可能です。



がんの統計 2022



定期的な内視鏡検査を受けることで、ポリープや小さながんといった病変を早期に発見できる可能性が高まります。早期の胃がんや大腸がんでは、体への負担が少ない内視鏡治療で完治を目指せるケースも多くあります。当院では、内視鏡的による大腸ポリープの切除や、早期胃がん・早期大腸がんに対する内視鏡治療(内視鏡的粘膜下層剥離術:ESD)などを積極的に行っています。

「痛そう」「苦しそう」といった不安をお持ちの方も多いと思いますが、鎮静剤を使用して眠ったまま検査を受けることも可能です。リラックスして受けられる工夫を行っていますので、どうぞご安心ください。

早期発見が健康寿命を延ばす第一歩です。胃の不調や便秘の変化を感じている方、がんの家族歴がある方、検診対象の方(胃がん内視鏡検診は50歳以上、2年に1回)は、ぜひ一度内視鏡検査をご検討ください。



関節痛

整形外科兼人工関節センター長

かま だ よし ちか
釜 田 祥 史

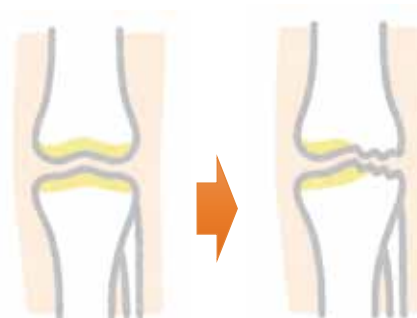


こんにちは。この春から整形外科医長兼人工関節センター長に就任しました釜田祥史と申します。皆様の日常がより良いものとなるよう、関節痛や怪我の治療に真摯に取り組ませていただきますので、よろしくお願い致します。

さて、今回は関節痛についてお話をさせていただきます。関節痛に限らずですが、何か症状がある時はなぜそれが生じているのかを確認し、その原因に合った対処を行うことが大切です。関節痛の主な原因は 1. 変形性関節症 2. 関節リウマチなどの炎症性疾患 3. 外傷になります。



今回は高齢者に特に多い 1. 変形性関節症のお話をします。これは積み重ねた負担により軟骨が削れ、関節が傷み、変形していく病になります。再生医療の研究が進んだ現在でも、削れてしまった軟骨を再生させることは困難です。しかしながら、適切な治療により関節痛を軽減させることは可能です。変形性関節症に対して行われる治療は大きく分けて、①保存治療 ②骨切り術 ③人工関節 があり、どれも当院で対応が可能です。



- ① 保存治療とは手術を行わない治療のことであり、運動療法、薬物療法、装具療法などがこれにあたります。当院では実施しておりませんが、保険適応外の診療として再生医療もあります。
- ② 骨切り術はバランスが悪くなり、関節の一部に負担が集中してしまっている場合に、骨の角度を調節することで適切に負担を分散する手術です。当院では変形性膝関節症に対して実施しています。関節痛の軽減や変形性関節症の進行予防を目的とします。骨が癒合すればスポーツも可能です。
- ③ 人工関節は傷んだ関節を人工の関節に替える手術です。関節痛の軽減と関節の動きをスムーズにすることを目的とします。当院では、人工股関節全置換術（THA）の際にはAMIS（前方最小侵襲手術）を採用しております。これは股関節周囲の筋肉の損傷を最小限に抑えることで、術後の疼痛軽減、脱臼の予防などのメリットがあります。膝関節においては、患者様の状態に応じて、損傷の強い内側だけ人工関節とし外側はご自身の関節を残す人工膝関節単顆置換術（UKA）も行っております。膝関節全体を替える人工膝関節全置換術（TKA）に比べて侵襲が少なく、術後のリハビリテーションもスムーズになる傾向があります。また、TKAを行う際にはより正確な設置ができるようナビゲーションシステムを用いています。

このように当院では様々な治療を実施しております。状態に応じた治療をご提案させていただきますので、関節痛に悩んでいる方がいらっしゃいましたら、ぜひ一度ご相談ください。

認知症ケア推進委員



当院では認知症をお持ちの患者さんが安心して治療や療養生活を送れるように「認知症ケア回診」を行っています。認知症看護認定看護師を中心に医師・看護師・リハビリ・薬剤師・栄養士など多職種が連携し、一人ひとりの状態に合わせたケアに取り組んでいます。

回診では、日々の生活リズムや食事・服薬の状況を確認し、必要に応じて改善策をチームで話し合います。ご家族からのお話も伺いながら、その方らしい生活を支える工夫を行っています。

認知症は「できなくなる病気」という印象を持たれがちですが、実際には残された力や、その人らしさを活かすことが出来ます。

当院の認知症ケア回診では、そうした力を大切に、安心して過ごせる環境づくりに努めています。



こうした取り組みを通じて得られた工夫や学びは、院内にとどまらず、地域で暮らす認知症の方やご家族を支えるヒントにもなります。

当院は、今後も地域の皆様と共に歩みながら、「認知症になっても大丈夫」と安心していただける病院づくりを進めてまいります。



病院長コラム

長く続いた猛暑がおさまってきました。これから短い秋を経て今度は寒い冬がすぐやって来でしょう。気候が急激に変化する時期となりました。普段以上に体調の管理をお願いします。台風の大被害が出ているとの報道がありました。台風への備えを十分に行っておく必要があるでしょう。当院も川音川の増水に備え止水板設置の訓練などを行っています。災害は台風だけでなく地震の確率も高まっています。富士山噴火も想定する必要があるでしょう。当院は災害拠点病院でもありますので訓練、備えの点検を定期的に行っています。皆様も備え、点検を忘れずに。

足柄上病院のドクター紹介（10月新任医師）



柏渕 浩一
(かしわぶち こういち)
診療科：総合診療科



神奈川看護フェスティバル 2025 一日看護体験 in 足柄上病院

7月31日に高校生の一日看護体験のイベントを開催！近隣の高校へポスターを配布し、併せてHPで募集を行ったところ、参加者は25名でした。当日は、職員と同じユニフォームを着て、一日体験ナースに変身しました。

午前中は、正しい手指消毒や感染予防のガウン着脱体験、点滴準備体験、午後は、院内見学と座談会を行いました。1年目看護師との座談会では、看護師を目指したきっかけや、看護の楽しさを質問する等、「楽しかった！」と好評でした。「将来看護師になりたい」との感想も聞かれ、未来の看護師像をイメージすることに繋がったようでした。当院で看護師として共に働けることを期待しつつ、また来年も開催していきたいと思います！



第3回足柄上病院「市民・町民公開講座」 12月6日（土）開催

10:00～11:30（9:30 受付開始）

会場：足柄上病院 講義室（仮設棟 1 階）

ご参加ください。

要予約 先着 50 名

テーマ：【 脳卒中 】

第1部 「脳卒中を起こした時の対応と予防について」

講師：脳神経外科 部長 濱田幸一

第2部 「脳卒中リハビリについて」

講師：リハビリテーション室 PT 市川拓

*申込みは電話・FAXでもお受けします。（11月10日から予約受付開始）

電話：0465-83-0351（代） FAX：0465-82-5377

問合せ先 足柄上病院 経営企画課 講座担当 詳しくはホームページをご覧ください。



冬に流行する感染症と対策について

感染管理室

気温が低く、空気が乾燥するこれからの季節は、ウイルスや細菌が原因の感染症が増加する傾向にあります。また、年末年始は多くのイベント、帰省などで複数の人と接触する機会が増えます。

ひとりひとりができる感染対策を行うことで、自分自身を感染症から守ることができ、また、感染症の拡大を防ぐことに繋がります。

冬に感染症が流行する理由



- ウイルスの活発化
温度、湿度ともに低くなるこれからの季節は、低温・低湿を好むウイルスが増殖しやすい環境となります。
- 換気が不十分となる
寒さのため窓を開けて、換気をする機会が減ることで、感染者から排出されたウイルスなどが漂いやすい環境となります。
(空気が乾燥していることで、ウイルスの水分が蒸発し比重が軽くなるため、空中を浮遊する期間が長くなります)
- 免疫力の低下や体内水分量の減少
冬の寒さや年末年始の仕事やイベントなどにより疲れやストレスが溜まるため、免疫力の低下を招きます。また、寒くなると水分を摂取する機会が少なくなるため、体内の水分量が減少し、のどや気管なども乾燥します。そのためウイルスが侵入しやすくなります。

冬に流行する感染症



	症状
インフルエンザ	急な発熱(38℃以上となることが多い)、咳、咽頭痛、頭痛、関節痛、倦怠感など
新型コロナウイルス	発熱、咽頭痛、咳、倦怠感、頭痛など
感染性胃腸炎	急な嘔吐、下痢、発熱など

感染対策について

主な感染経路は、感染者の咳やくしゃみの飛沫に含まれた病原体を吸い込む「飛沫感染」、感染した人の吐しゃ物を触った手や、感染した人が鼻をかんだ手で触ったドアノブや手すり、つり革等に触れた手で自分の鼻や目を触ることによりウイルスが体内に入り感染する「接触感染」です。

今日からできる感染対策

- ☐ 外出先から戻った時、不特定多数の人が触った場所に触れた後は手洗い(手指消毒)を徹底しましょう
- ☐ こまめに換気をしましょう
- ☐ 適度な湿度を保ちましょう
- ☐ 十分な休養を心がけましょう
- ☐ 人混みに行く際にはマスクを正しく(鼻からあごまで隙間なく覆う)装着して出かけましょう



発行：神奈川県立足柄上病院 〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領866-1

(TEL)0465-83-0351 (FAX)0465-82-5377 <http://ashigarakami.kanagawa-pho.jp/>

編集：神奈川県立足柄上病院経営企画課 (内線)5520

神奈川県立
足柄上病院